



# ストリートチルドレン芸術祭

Art of the Children Living on the Street

—あなたがいてくれてよかった—

## 2013 年度 活動報告書

(2013 年 4 月～2014 年 3 月)



ストリートチルドレン芸術祭  
2014(平成 26)年 4 月



# 1. ご挨拶

2013年度の活動は、チャリティカレンダー制作・販売活動を通して、多くの皆様に、ストリートチルドレンや東日本大震災で被害に遭われた方々の様子をお知らせする一助となりました。活動の中心となりました東北福祉大学国際ボランティアサークルの学生団体が、本年度、社会貢献学会より「奨励賞」を、一般財団法人学生サポートセンターより「学生ボランティア団体助成」採択を受け表彰されました。

これもひとえに、協賛企業様、個人・団体や多くの皆様方のおかげと、深く感謝申し上げます。

さて、当団体は、本年で10年を迎えることになりました。発足当初は、中学生を主体に教職員、社会人メンバーがサポートした活動から、高校生や新たに出会った大学生へと移り、現在は、東北福祉大学生や発足当時の中学生が大学生、社会人となり活動に参画するようになりました。

若い力による活動は、チャリティカレンダー制作にも表れています。ストリートチルドレンと東日本大震災被災者をつなげた企画で発行しました。ストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちは、支援を受けるだけでなく、彼らが描いた絵を提供します。被災者はカレンダーに採用する絵の選考者となり、カレンダー制作に参加しました。カレンダー収益は、ストリートチルドレン自立支援施設や被災者支援として届けることが可能になりました。その触媒役を学生が行っています。おかげをもちまして、世界の子ども、被災者、カレンダー購入者、学生、メンバー、芸術祭支援者、協賛企業等々、と交流の輪が広がっています。

これまでに、延べ59の国と地域、75カ所へ1500万円余の浄財を届けることが出来ました。これからも、ストリートチルドレンの自立支援やモンゴル、バングラデシュ、チベット、被災地訪問交流を進めていきたいと思えます。

大きな組織もなく、こころざしを同じにする人が集い活動してきたストリートチルドレン芸術祭です。この活動が10年も続いているのは、中学生や大学生が積極的に活動しているからだと思えます。その姿を見てサポートする社会人や大学当局、協賛企業様のおかげだと改めて感謝申し上げます。

発足当初のメンバーの皆様、ご支援くださいました各界著名人の皆様、再度、集い、10年を迎えたストリートチルドレン芸術祭をまとめ、新たな活動を企画できることを願ってやみません。

2014年4月吉日

ストリートチルドレン芸術祭代表 中島洋一郎

## 2.ストリートチルドレン芸術祭とは

今日、世界では貧困、紛争、虐待など様々な理由により住む家がないため、路上生活を余儀なくされているストリートチルドレンといわれる子どもたちが1億人いると言われていています。彼らは生きるために、学校へ通うこともできず、ゴミを拾いお金に換えたり、物乞いをすることで日々を懸命に生きています。さらに、彼らは飢餓や誘拐されて子ども兵として戦場に送り込まれる、臓器を奪われる、性的な被害に遭うなど、さまざまな脅威にさらされています。

ストリートチルドレン芸術祭が誕生したのは**2005**年のことでした。路上で暮らす子どもたちをただ単にかわいそうと見るのではなく、彼らの描く絵を通じて、彼らの存在や思い・感性・可能性を一人でも多くの人々に実感してもらえたらという願いから、ストリートチルドレンに特化した芸術祭を開催する組織として世界で初めて誕生しました。ストリートチルドレン芸術祭は有給スタッフ不在の無償ボランティア団体です。当初は熱海市立小嵐中学校の生徒・教職員のほか、各地の小中学校の教員、国際協力関係の団体職員、会社員、主婦、大学生、高校生など、内外**30**名ほどのスタッフで構成されていました。世界**100**か国以上に広がる**JICA**ネットワークや**NGO**団体、世界の若者たちのネットワークなどの協力を得て、世界の子どもたちの絵は集められています。

東京に本部を置く『ストリートチルドレン芸術祭実行委員会』が制作するチャリティカレンダーは、ヤンキース松井秀喜選手、女優の藤原紀香ら、各界の著名人と静岡の中学生たちが、子どもたちのために掲載用の作品を無償で選出したのがはじまりでした。これまでに世界中の子どもたちから**1000**点を超える作品が寄せられてきました。ここで得られた収益はストリートチルドレン支援をしている現地**NGO**協力のもと、こどもたちの自立支援や生活改善・学校へ行くための費用などに活用されています。

そして、芸術祭の趣旨に賛同した東北福祉大学・生田目学文ゼミが**2007**年からカレンダー作りに参加したのが、私たち東北福祉大事務局のはじまりです。**3**年間のゼミ内での活動を経て**2010**年からは大学公認の国際ボランティアサークルとして、より多くの学生が活動に加わり、活動範囲も広がりました。また以前は東京本部と東北福祉大事務局はそれぞれにカレンダー制作を行っていましたが、**2011**年からは東京本部をはじめ多くの方々にご協力いただきながら、東北福祉大事務局の学生が主体となってカレンダー制作、販売ならびに絵の展示会などを行っております。

**2014**年も引き続き、カレンダーや原画展を通して、ストリートチルドレンはもちろん世界中で支援を必要としている子どもたちの思いや感性、可能性を、全世界へお伝えしていくとともに、日本の皆様から集まる温かなご支援を世界の子どもたちへ届けていきます。

## ○活動の趣旨

この一枚の絵は、私たちストリートチルドレン芸術祭の活動の原点です。「将来自分が住みたい家」というテーマで、多くの子どもは田園風景に広がる小さな家を描く中、彼だけが、お母さんのお腹の中にいる胎児を描きました。彼は、「だって自分が15年間生きてきた中でここが一番安全だから...。」というコメントを寄せたのです。



作者：ジェイソン(男子)  
(05年作品提供時15歳)  
国：フィリピン

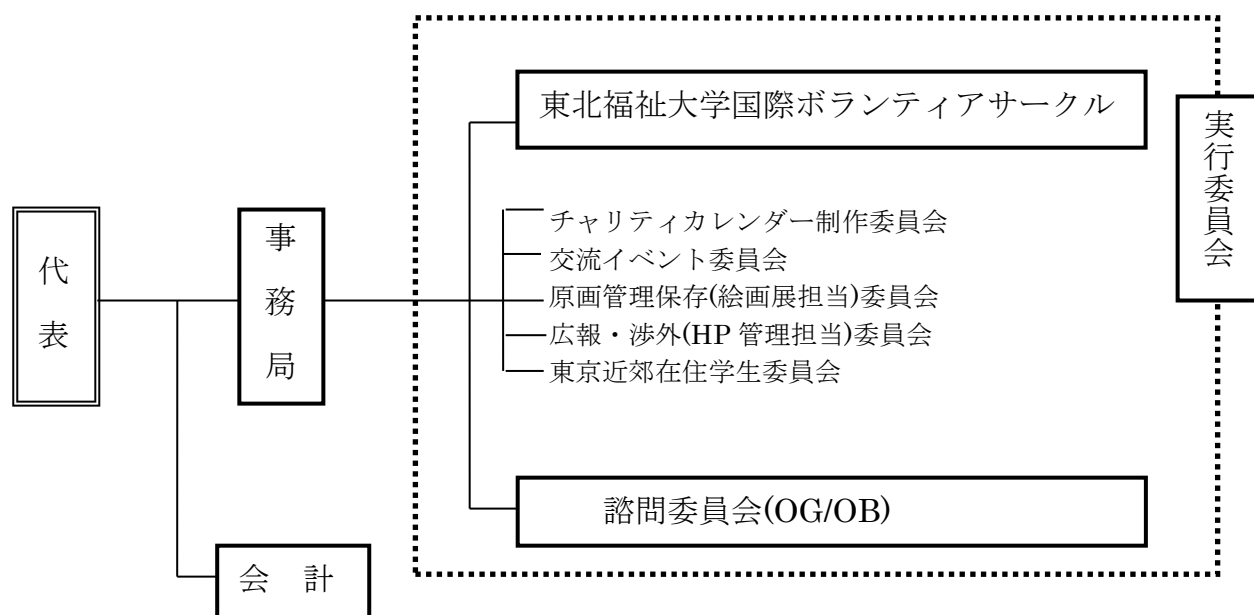


## 『世界の子どもたちが 安心して暮らせる安全な環境』

ストリートチルドレンをはじめ様々な困難な環境のもと生きている子どもたちが描く絵を通して、彼らの存在、思い、可能性をより多くの方にしていただき、世界の子どもたちが安心して暮らせるような環境づくりのための支援活動を行うことを目的としています。

## ○組織概要

### ストリートチルドレン芸術祭組織図



ストリートチルドレン芸術祭の活動運営主体は、東北福祉大学国際ボランティアサークルです。また、事務局のもとに企画ごとの実行委員会を設け、活動の運営をしていきます。

### 3. 2014 年度版チャリティカレンダー 制作について

私たちは路上生活を強いられているストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちの支援を行うことを目的とし、チャリティカレンダーを制作してきました。しかし、2011年3月11日、東北を、日本を、世界を震撼させた災害がおこりました。同じ東北に住む私たちが何かできることはないのか、同じ東北に住む私たちだからこそ、ストリートチルドレン芸術祭東北福祉大事務局だからこそできることがあるのではないかと考えました。そこで制作したのが2012年復興特別版カレンダーでした。2012年版は路上生活という過酷な生活を強いられながらも夢をもって頑張っているストリートチルドレンと、被災されながらも必死に頑張っている人たち、そしてそれを支えようと頑張っている人たちの力に少しでもなりたいという思いから「頑張っている人をつなげたい」というコンセプトの下に制作しました。

そして、2012年版を手にしてくださった方々から「これからも復興に協力し続けたい」という声を頂き、その思いを届ける架け橋になりたいという願いから、2013年版そして2014年版も復興特別版として世界の子どもたちの支援に加えて被災地支援のために制作しました。2014年版のコンセプトは「夢」です。絵を描いてくれた子どもたち、東日本大震災により被災された方々、そして被災地支援に尽力されている方々が、生きることの辛さや悲しさに負けずに夢に向かって頑張っていることを知って頂けたらという思いが込められています。今回、ストリートチルドレンたちが描いたカレンダーの絵は被災された方々、支援者の方々に選んでいただきました。直接お会いしてお話を伺い、絵のコメントと共に今の状況やお気持ち、そして「夢」を聞かせていただき、記載させていただきました。



## ○2014年チャリティカレンダー4月ページのご紹介



選考者：リンダ・オオハマさん

日系カナダ人の映画監督として震災後何度も東北を訪れた際に、東北の人々の姿に心動かされ、岩手・宮城・福島を舞台にした東日本大震災長編ドキュメンタリー映画「TOHOKU NO SHINGETSU 東北の新月」の自主製作をして世界中に語り継ごうとしている。

選考理由：この若者は将来恵まれない子どもたちの教育をしたいと望んでいるから。



4月掲載作品作者のブリスティ

作者：ブリスティ(11歳)

国：バングラデシュ

境遇：路上に一人でいたところを保護され、

2007年よりシェルターホームの一員となる。

(当時5歳) 何事にもマイペースに取り組み、できないことは練習を重ねる努力家。女の子にしては珍しく算数が好きで、過去にはシェルターホーム内でのクイズ大会で優勝したり、ボードゲームでは男子顔負けの腕前を見せたりする才能も。将来は先生になりたいという夢を持ち、日々勉強に励んでいる。

入選メッセージ：入選したと聞いて、すごく嬉しいです。

そしてこのカレンダーを作ってくれた方々、こういう機会をくれた皆さんに感謝したいです。

私は自分が先生になれると思ってこの絵を描いたので、今回選ばれたことで本当に自分は先生になれるんだと思いました。その夢を叶えるために毎日頑張ります！



## 4. 2013 年度活動概要

### ○原画展開催

毎年、世界各国からたくさんの絵が集まります。子どもたちの描く作品はどれも個性的で、ひとつひとつにメッセージが込められています。しかし、残念ながら、カレンダーに選ばれる絵は限られてしまいます。カレンダーには選ばれなかった作品も多くの方に見て頂くこと、そして何より子どもたちの作品を直に見て頂くことを目的として原画の展示を行っています。

#### ① せんだい地球フェスタ

(様々な国際交流・国際協力団体が集まるイベント)

開催日時・場所：2013年9月15日(日) 仙台国際センター



#### ② 大学祭

開催日時・場所：2013年10月27日(土)28日(日)



## ○2014年チャリティカレンダー街頭販売会

開催日時・場所：2013年11月16日(土)藤崎百貨店

毎年、仙台老舗百貨店である藤崎様のご協力を頂き街頭販売を行っています。今回も、寒空の下、多くの方が足を止めて下さいました。こうして、直接お話をしながらカレンダーを手にとって頂くことで、たくさんの方に知って頂くことができるのだと実感しています。



## ○2014年チャリティカレンダー完成報告会

開催日時・場所：2013年12月15日(日)東京・JICA地球広場  
報告会テーマ「被災地の復興と子どもたちの未来について」  
～私たちと一緒に考えませんか～

今回の報告会は芸術祭の活動報告に加え、支援先団体関係者、カレンダー選考者をゲストスピーカーとしてお招きし、子どもたちの未来、被災地の復興をテーマにパネルディスカッションなどを行いました。

### プログラム

① ストリートチルドレン芸術祭について(カレンダー完成報告)

② 子どもたちの未来について

カンボジアでフリースクールを設立し、子どもたちへの教育支援等を行っている方に現状や課題についてお話していただきました。

③ 被災地の復興について考える

震災から3年経つ被災地の現状についてパネルディスカッションを行い、メディアでは流れる事のない生の声を聞くことができました。震災を風化させてはいけないと強く実感することができました。



カレンダー完成報告



パネルディスカッション

# ○勉強合宿

東北福祉大学事務局は学生が中心となり運営しています。その為、毎年メンバーの入れ替わりがあります。そこで、新しく入るメンバーに対して、ストリートチルドレン芸術祭の歴史や活動内容をしっかりと引き継ぐこと、また、既存のメンバーも一緒に活動の意義や世界の現状について学び、よりよい活動に結び付けることを目的とし、学生自身が企画した勉強会です。

○開催日時：2013年5月2日(木)・3日(金)

○場所：仙台市作並温泉グリーングリーン

## I 子どもの絵から広がる支援の輪

報告：ストリートチルドレン芸術祭代表 中島洋一郎

- ① ストリートチルドレン芸術祭の趣旨及び活動内容、組織等
- ② 魅力ある活動を創ることを目指して

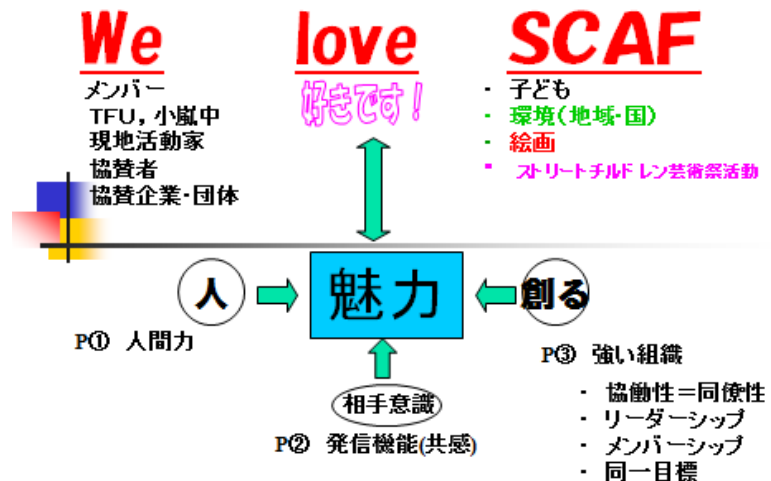
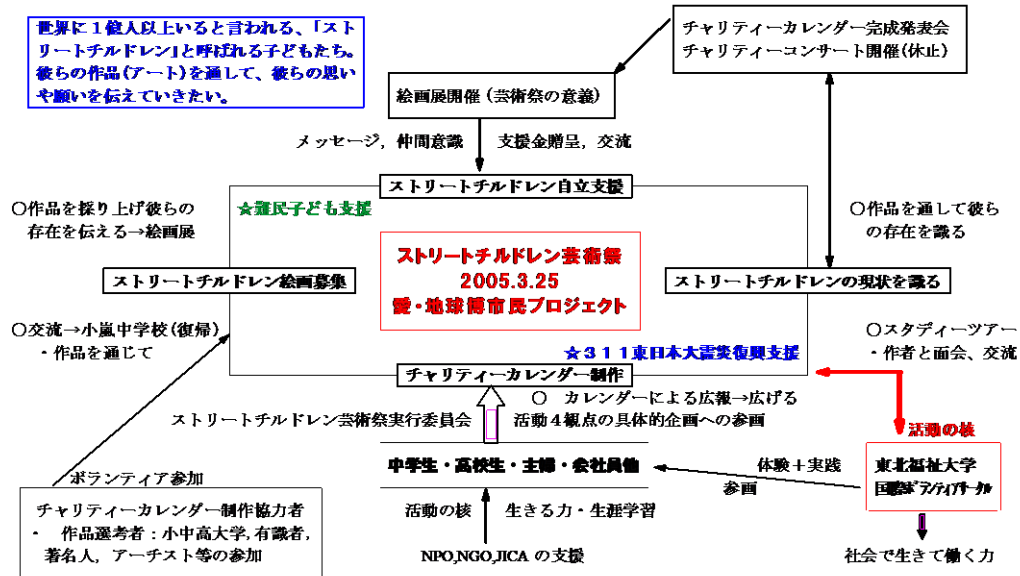
<プレゼン資料>

### 1 ストリートチルドレン芸術祭

Art of the children living on the streets

2013. 04. 01 現在 (9年目を迎えて)

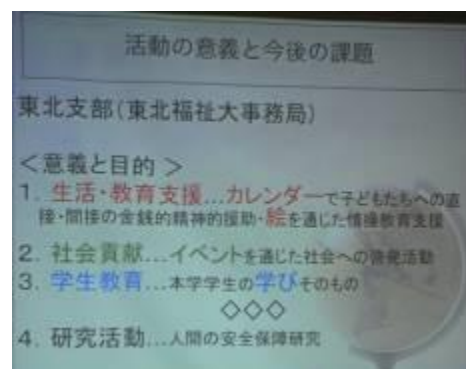
作成@中島





## II 東北福祉大学のストリートチルドレン芸術祭参加プロセス 報告：東北福祉大学准教授 生田目学文

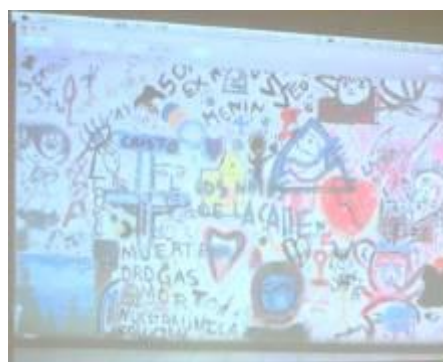
ストリートチルドレン芸術祭発足及び組織、活動概要等について説明する。活動の核であるチャリティーカレンダーについて、モンゴル訪問で交流したエピソードを交えた話。



## III メキシコ留学報告

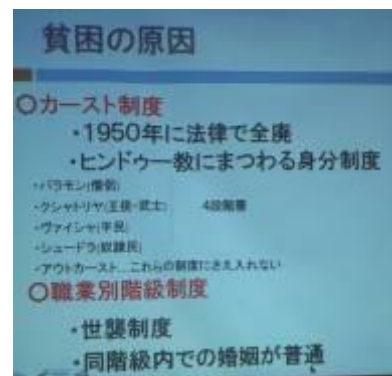
報告者：宇都宮大学4年生 高中祥太(熱海市立小嵐中学校OB)

3.11東日本大震災後の8月末メキシコへ出発した。彼は、メキシコの小校を訪ね、被災地へのメッセージをお願いした。写真は、子どもに書いてもらったメッセージを掲げているもの。このような作品を200枚ほどになり、日本へ持ち帰ってきた。メキシコ滞在中は、彼が中学当時からストリートチルドレン芸術祭にかかわってきたカサアリアンサを訪ねた。この絵は、カサアリアンサの壁に描かれていた絵である。子どもたちの生活環境の一端が表現されている。

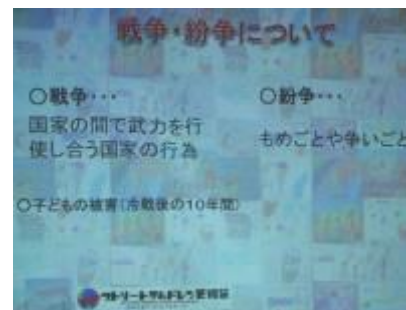


#### IV 東北福祉大学国際ボランティアサークルによるグループ発表

##### < A : 貧困の原因 >



##### < B : 戦争・紛争について >



##### < C : 途上国の医療問題 >



以上3グループによる報告がありました。それぞれの発表を聞き、その後、4人グループでテーマごとにディスカッションに入りました。

## V グループ討議から出た課題

- ① 教育の保障
  - ・ 教育を受ける機会の保障
- ② 子ども少年兵を生み出さない
  - ・ 戦争や紛争は貧困を生む
  - ・ アフリカを中心に少年へ25万人いると言われる
  - ・ 薬物を使い子どもを洗脳し少年兵にする現実
- ③ 医療の充実
  - ・ 安全な飲料水の確保＝上下水道の整備
  - ・ 都市と農村の格差
  - ・ HIV感染、エイズ予防教育＝性に関する教育

※ キーワード：児童の権利条約,  
学校教育





## 5. 会計報告

### ○2013 年度決算

(単位：円)

I. 収入の部		II. 支出の部	
1. 助成金	100,000	1. カレンダー印刷費	700,000
2. 売上金収入	1,859,000	2. イベント費	94,502
3. 寄附金	213,424	3. カレンダー等発送費	25,150
4. 前年度繰越金	1,937,331	4. 事務消耗品費	35,718
当期収入合計 (A)	4,109,755	5. 交通費	250,648
		当期支出合計 (B)	1,106,018

当期収支差額 (A) - (B)	3,003,737
次期繰越金	3,003,737

### ○2014 年度予算案

収入		支出	
前年度繰越金	3,003,737	カレンダー印刷代	700,000
		活動運営費	500,000
		行事・イベント費	200,000
		海外支援金	600,000
		被災地支援金	900,000
		予備費	103,737
合計	3,003,737	合計	30,003,737

#### ○2014 年版チャリティカレンダー収益による寄付金額

海外支援金	60 万円
被災地支援金	90 万円
寄附金総額	150 万

## 6. 過去寄付実績

カレンダー	寄付金額	寄付先及び団体名
2006 年版	80 万円	フィリピン、ウガンダ、メキシコ、バングラデシュ
2007 年版	110 万円	バングラデシュ(エクマツラ)
		インド(ミネハハ・ヘルピング・フリー・エデュケーション・スクール)
		ルワンダ(ルワンダの教育を考える会)
		ベトナム(ベトナムの「子どもの家」を支える会)
		カンボジア(CCH「幸せの子どもの家」)
		ザンビア(Zambia Children New Life Center)
2008 年版	300 万円	カンボジア(CCH「幸せの子どもの家」)
		インド(ミネハハ・ヘルピング・フリー・エデュケーション・スクール)
		バングラデシュ(エクマツラ)
		ルワンダ(ルワンダの教育を考える会)
		メキシコ(カーサ・アリアンサ)
		グアテマラ(カーサ・アリアンサ)
		ブラジル(サオ・マルティーニョ)
		モンゴル(モンゴル子供支援 IVNMC)
2009 年版	280 万円	カンボジア(JHP・学校をつくる会／CCH「幸せの子どもの家」)
		ベトナム(ベトナムの「子どもの家」を支える会)
		フィリピン(カンルンガン・サ・エルマ)
		インド・ダラムサラ(チベット子ども村, ニントプリン(障害児の訓練施設))
		インド(ミネハハ・ヘルピング・フリー・エデュケーション・スクール)
		バングラデシュ(エクマツラ)
		モンゴル(ロータス孤児院, 青少年犯罪・裁判前拘置所他)
		メキシコ(カーサ・アリアンサ)、グアテマラ(カーサ・アリアンサ)
2010 年版	230 万円	カンボジア(CCH「幸せの子どもの家」, 愛センター)
		ベトナム(ベトナムの「子どもの家」を支える会)
		インド(ミネハハ・ヘルピング・フリー・エデュケーション・スクール)
		インド・ダラムサラ(チベット子ども村, ニントプリン(障害児の訓練施設))
		バングラデシュ(エクマツラ)
		メキシコ(カーサ・アリアンサ)、グアテマラ(カーサ・アリアンサ)
		フィリピン(カンルンガン・サ・エルマ)
		モンゴル(モンゴル子供支援 IVNMC)
		ルワンダ(ルワンダの教育を考える会)
2011 年版	220 万円	カンボジア、ベトナム、バングラデシュ、インド(チベット子供の村)、モンゴル
		ニカラグア、ルワンダ、南アフリカ、日本(東日本大震災で被災した子どもたち)
2012 年版	140 万円	インド・ダラムサラ(チベット子ども村)、カンボジア(愛センター)、モンゴル
		(モンゴル子ども支援ネットワーク)、ルワンダ(ルワンダの教育を考える会)、
		バングラデシュ(エクマツラ)、日本(石巻市十三浜漁協、石巻市立相川
		小学校閉校誌作成費補助等、計6カ所復興支援)
2013年版	145 万円	ザンビア(Every Ophans)
		インド・ダラムサラ(チベット子ども村)
		バングラデシュ(エクマツラ)
		カンボジア(愛センター)
		モンゴル(モンゴル子ども支援ネットワーク)
		日本(宮城県石巻市十三浜漁協、岩手県釜石市天神町仮設商店街・仮設住
		宅等、計5カ所復興支援金)

## 7. 終わりに

ストリートチルドレン芸術祭の活動が今年で10周年を迎えることになりました。私たち東北福祉大学が参加してから7年、そして事務局機能が移転して3年が経過したわけですが、今振り返ればつい最近の出来事のように思い返されます。

私たちの活動の第一の目的は、もちろんカレンダーの売り上げなどによる子どもたちの生活支援・学習支援ですが、絵を通じて支援することによって世の中で必要とされていないと感じている子どもたちが自らの存在意義やがんばる喜びを感じる契機となっている、という効果も生んでいます。この活動を通じてひとりでも多くの子どもたちが路上生活から解放され、自立できることを願ってやみません。

第二に、世界中で路上生活を余儀なくされている子どもたちの存在、貧しい途上国で起きている貧困や格差の問題はこの豊かな国に住む私たちにとってとても遠いところで起きている話に感じられます。しかし、グローバルゼーションの世界にあって、私たちが消費している食品や生活必需品がこうした子どもたちの児童労働の結果であったりします。まずはそうした事実に向けること、知り、識ることが重要であり、世界をよりよくしていくための第一歩となるのではないのでしょうか。チャリティカレンダー制作やイベントの開催を通じて数多くの方々にこの事実を伝えていきたいと思えます。

そして第三に、この活動は支援している私たち自身の学びの場そのものです。学生たちはカレンダーを購入してくださる方々や協賛してくださる方々に活動の趣旨をお伝えするため、日々勉強を重ねています。ほぼ毎年行っているスタディツアーでは、途上国のストリートチルドレンと直にふれあい、彼らを支援する現地NGOのスタッフと交流することで、普段の生活では決して得られない貴重な体験を得ながら成長していきます。

団体の立ち上げに尽力された静岡県熱海市立小嵐中学校校長（当時）の中島洋一郎先生と生徒たち、田中章義さんをはじめ、多くの方々が現在も支援を続けてくださっています。とくに当時の中学生たちの中には現在大学生や社会人となっても活動を支えてくれているメンバーもあり、感慨もひとしおです。また、本学で在学中に活動した後、多くのメンバーが卒業後も支援を続けています。

何より、この活動が10周年を迎えることができたのは、冒頭のご挨拶にもありますように、チャリティカレンダーの購入やイベントへの参加を通じてこの活動を支援してくださる方々、協賛してくださる方々の存在があってのことです。

このすばらしい活動が10周年を迎える喜びを感じる一方で、さらなる活動の充実を目指したいと思わずにはられません。今後ともストリートチルドレン芸術祭の活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2014年5月吉日  
ストリートチルドレン芸術祭事務局 生田目学文

〈連絡先〉

〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1 東北福祉大学・生田目研究室内

TEL&FAX : 022-301-1260

E-mail : [charity@tfu-mail.tfu.ac.jp](mailto:charity@tfu-mail.tfu.ac.jp)

HP : <http://www.children-smile.com/>